

# KGA GOLFER'S NEWS

2021冬号 No.136

一般社団法人 関東ゴルフ連盟



## 2021年KGA主催決勝競技詳細

関東ミッドアマチュアゴルフ選手権  
関東女子ミッドアマチュアゴルフ選手権  
関東シニアゴルフ選手権  
関東女子シニアゴルフ選手権  
関東ミッドシニアゴルフ選手権  
関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権  
関東ジュニアゴルフ選手権 男子  
関東ジュニアゴルフ選手権 女子  
関東小学生ゴルフ大会

## 特集記事

世界共通のハンディキャップシステム  
もうすぐ日本でも運用開始!!  
2022年度「TEAM KGA ジュニア」  
活動開始



# 世界共通のハンディキャップシステム もうすぐ日本でも運用開始!!

## WHS Starts Soon!

WHS導入済み及び導入予定地域(イメージ)

誰でも  
受け入れる

世界中の  
どこでも使える

正確で  
使いやすい

世界共通のハンディキャップシステムであるワールドハンディキャップシステム(以下WHS)の日本での導入が、来年(2022年)4月から始まる。これまでのJGA/USGAハンディキャップシステムからの変更点と、関東ゴルフ連盟がWHS普及のために取り組んでいく事業内容、目標を紹介する。

2021年12月25日発行  
一般社団法人 関東ゴルフ連盟  
Kanto Golf Association

### 1/ 特集1

## 世界共通のハンディキャップシステム もうすぐ日本でも運用開始!!

### 6/ 2021年KGA主催決勝競技詳細

- 関東ミッドアマチュアゴルフ選手権
- 関東女子ミッドアマチュアゴルフ選手権
- 関東シニアゴルフ選手権
- 関東女子シニアゴルフ選手権
- 関東ミッドシニアゴルフ選手権
- 関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権
- 関東ジュニアゴルフ選手権 男子
- 関東ジュニアゴルフ選手権 女子
- 関東小学生ゴルフ大会

### 24/ 特集2

## 2022年度「TEAM KGA ジュニア」活動開始

### 28/ INFORMATION

TKJ出身 中島啓太選手 第12回アジアパシフィックアマ制覇!  
2021年度に誕生したTKJ出身プロゴルファー紹介

### 29/ COLUMN

ミニブームの中で新たなやり方、とアマチュアゴルフを思う



今年夏のプロテストに合格したTKJ出身の(左から)岩井千怜、佐久間朱莉、岩井明愛の3選手とTKJ認定式に勢ぞろいした認定選手たち

編集/一般社団法人関東ゴルフ連盟広報委員会  
 統括/吉田裕明(KGA広報委員長)  
 大竹 茂(KGA広報副委員長)  
 塚越克一(KGA広報副委員長)  
 久保田昌幸(KGA広報委員)  
 黒川秀昭(KGA広報委員)  
 鈴木一也(KGA広報委員)  
 高岡和弘(KGA広報委員)  
 富澤 仁(KGA広報委員)  
 本條 強(KGA広報委員)  
 北川外志廣(KGA広報委員)  
 鈴木暹理(KGA広報委員)  
 福島 靖(KGA広報委員)

裏表紙/平川カントリークラブ  
西那須野カントリー倶楽部

# ハンディキャップシステム 8年ぶりの大改革 何が変わるのか？

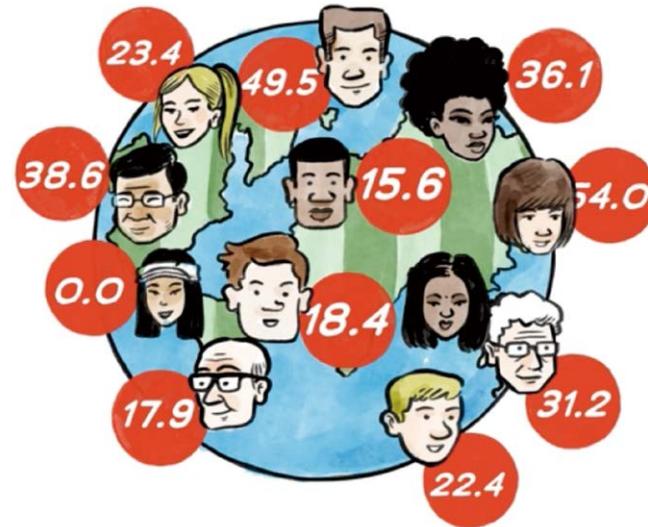
ハンディキャップは、ゴルフの技量が異なるプレーヤー同士が、対等、公平に競い合えるように考え出されたシステムだ。

ハンディキャップを決めるシステムの共通化することにより、1対1だけでなく、倶楽部内の競技や倶楽部間の対抗戦での技量差調整が図れる。

年齢、性別、使用ティーの違いなどに関係なく対戦できるし、違うコースで回った二人が戦うことも可能だ。

このシステム共通化を全世界に広げるのがワールドハンディキャップシステム(WHS)。これまで、世界では6つの異なるシステムがあったが、統一することによって、世界のどこに行っても、様々な国・地域の人が集まっても、共通の物差しの下で対戦できることとなる。

日本に、現行のJGA/USGAハンディキャップシステムが導入されたのが2014年から。8年ぶりの大改革となるWHS導入による主な変更点を挙げてみよう。



## HDCPインデックスを 取得して競技ゴルフを 楽しもう!

関東ゴルフ連盟では、年間100以上の競技(予選・決勝・月例競技等含む)を主催しているが、団体戦の関東倶楽部対抗、関東女子倶楽部対抗を除く主な個人戦競技に参加するためには、規定のHDCPインデックス

スを持っていることが、参加条件のひとつとなっている(左表参照)。

他にも、日本ゴルフ協会では日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープンの3オープンそれぞれで、HDCPインデックス取得のアマチュアであれば、技量に関係なく誰でも参加申し込みができる「ドリム

### 関東ゴルフ連盟主催競技一覧

2022年 開催競技(予定)	HDCP インデックス	年齢	予選会場
関東アマチュアゴルフ選手権	18.0まで	—	9会場
関東女子ゴルフ選手権	14.9まで	—	2.5会場
関東グランドシニアゴルフ選手権	17.9まで	70歳以上	4会場
関東女子グランドシニアゴルフ選手権	26.0まで	60歳以上	2.5会場
関東シニアゴルフ選手権	13.9まで	55歳以上	9.5会場
関東女子シニアゴルフ選手権	24.0まで	50歳以上	5会場
関東ミッドアマチュアゴルフ選手権	9.9まで	25歳以上	9会場
関東女子ミッドアマチュアゴルフ選手権	17.9まで	25歳以上	2.5会場
関東ミッドシニアゴルフ選手権	14.9まで	65歳以上	5会場
月例競技	男子4.4まで	16歳以上	
	女子9.9まで	16歳以上	

※関東ジュニアゴルフ選手権は、New J-sys登録者であることが条件

## HDCPインデックスを使った アンダーハンディキャップ競技も開催

### 関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権—KGA杯—

KGA加盟の各都県でブロック予選が行われ、予選通過者は決勝競技に進む。いずれも18ホールストロークプレー。21年の決勝競技は、10月、袖ヶ浦カントリークラブ袖ヶ浦コースで行われた。同様の大会が、関西、中部、九州など各地区連盟で行われ、各上位者は日本ゴルフ協会主催のアンダーハンディキャップ選手権「JGA杯J-sysゴルフ選手権」の出場権を得られる。21年は11月、兵庫・小野ゴルフ倶楽部で開催された。



### スポーツ庁長官杯ゴルフフェスタ

日本ゴルフ協会、日本パブリックゴルフ協会主催、スポーツ庁後援。2人1組の団体戦と個人戦がある。21年は、9月、全国40か所あまりのゴルフ場で開催された。各ゴルフ場のコースレーティングをもとに各自の当日のハンディキャップを算出する。18ホールストロークプレー。異なる日時、異なる会場でラウンドしたゴルファーで競うのが特徴。

ステージコンペティション」(スクラッチ競技)を開催している。プレ地区予選に当たる競技会で、各成績上位者は3オープンそれぞれの地区予選に出場できる。21年度は3オープン合計で18競技が実施された。

また、日本ゴルフ協会ではHDCPインデックス取得者であれば、年齢、性別に関係なく誰でも申し込み可能なアンダーハンディキャップ競技「ドリムステージコンペティション」(スクラッチ競技)を開催している。プレ地区予選に当たる競技会で、各成績上位者は3オープンそれぞれの地区予選に出場できる。21年度は、ナショナルオープン開催コース、もしくはそれに準じる7コースで実施された。

## 初回HDCPインデックスの取得条件が簡素化。 まずはJ-sysに登録してインデックスを持ってみよう!

加盟倶楽部の会員は無償でHDCPインデックスを取得可能。スコア提出をするだけで、難しい計算はすべてJ-sysにお任せ。ラウンド終了後は、できるだけ速やかにスコアカードを提出しましょう。

- 欠かさず提出、即更新
- 初心者にも優しい
- 気軽に取得

### 主な変更点

	現行システム	WHS
初回HDCPインデックス取得に必要なスコア枚数は?	18ホールスコア5枚	54ホール分スコア
HDCPインデックスの上限は?	男子36.4 女子40.4	一律54.0
HDCPインデックスの更新頻度は?	毎月1日1回	スコア提出ごと

# WHSで新たに加わる機能とは？

## ● ローHDCPインデックス

プレーヤーのスコア記録に登録されている最新のスコアから過去365日間における、プレーヤーの最少HDCPインデックス

## ● HDCPインデックスの増加制限

プレーヤーの最新HDCPインデックスが、短期間に大きく変動しないよう、ローハンディキャップインデックスより一定数値を超えて増加した場合に、『キャップ』と呼ばれる調整が行われる。(最低20枚の採用可能スコアが必要)

『キャップ』には下記2種類がある:

ソフトキャップ	新たに算出されたHDCPインデックスとローハンディキャップインデックスの差が、3打を超えたときに稼働する。増加幅が3打を超える場合、超過分の増加を50%に抑制する。
ハードキャップ	ソフトキャップ適用後に、プレーヤーのHDCPインデックスがローハンディキャップインデックスより増加できる上限を5.0打に制限する。

## ● 例外的なスコアによる低減調整

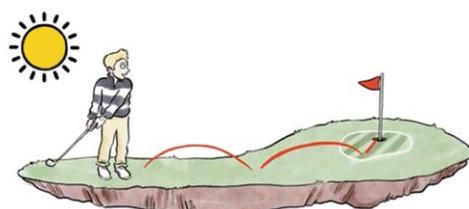
現行USGAシステムの「トーナメントスコアによる低減」に代わる新機能。

ラウンド当日におけるプレーヤーのハンディキャップインデックスより、7.0打以上少ないスコアディファレンシャルは、追加の低減調整を自動適用する。

インデックスに対するディファレンシャル	-7.0 ~ -9.9	-10.0以上
追加調整値	-1.0	-2.0

## ● プレーイングコンディション計算 (PCC)

プレー当日のプレーイングコンディションが、「通常通り」か、「通常よりも著しく難しいか、または著しく易しい」を、そのコースでプレーしたHDCPインデックス36.0以下のプレーヤーによる8枚以上のスコアによって評価。-1 ~ +3の整数の調整値を、全てのプレーヤーに適用する。この計算のためにも、プレーヤーは当日深夜零時までスコアを提出すべきである。



**渋井 信行**  
KGAハンディキャップ委員会  
副委員長・普及部会会長

この前、私の所属する千葉カントリークラブで、J・sysのハンディキャップインデックスを使った競技を行いました。インデックスを使えば、それぞれが違うティーからプレーしても公平な戦いができます。(ティーが固定された)クラブハンディでの競技では苦しんでいた人が、ティーを選べることで活躍するなど、よりハンディキャップ戦らしい楽しい競技になりました。WHSは、従来のものより、より練り上げられたシステムです。WHS普及のため、関東ゴルフ連盟加盟倶楽部向けの説明会、セミナーを、都県団体の協力を得ながら開催し、仕

組みを説明すると同時に、倶楽部内で活用する方法を提案します。ハンディキャップインデックスを取得することはKGAやJGAの競技会出場につながるなど、競技の面白さを知るきっかけとなります。KGA管内のJ・sys登録ゴルフファアを、現状(2021年11月現在)の18万4000人から20万人まで増やす計画を立てています。当面、各倶楽部独自のいわゆるクラブハンディキャップとの併存となるでしょうが、倶楽部、ゴルフファア両方に、WHS導入のメリットを粘り強く啓蒙していきたいと考えています。

# もっと知りたい、WHSの変更点

## ● HDCP査定のためのホールスコア上限は？

現行システム	WHS
ストロークコントロール	ネットダブルボギー

ネットダブルボギーは、各コースのハンディキャップナンバーとプレーヤーのコースHDCPを使用して、コンピューターが自動計算。

	現行システム	WHS
プレーしなかったホールのスコア	ネットパー	ネットパー
スタートしたがホールアウトしなかったホールのスコア	最も可能性の高いスコア (自己判断)	最も可能性の高いスコア (ガイドライン付)

スタートしたが、ホールアウトしなかったホールのスコアは、WHSではホールまでの距離により、加えるストローク数を1打~4打とするガイドラインが示されている。(詳しくは規則書を参照)



## ● HDCP査定に採用するためにプレーしなければならない最少ホール数は？

	現行システム	WHS
18ホールスコア	13ホール	14ホール
9ホールスコア	7ホール	7ホール

18ホールスコアの場合、現行の13ホールから、14ホールに変更。9ホールスコアの場合の7ホールは変わらない。

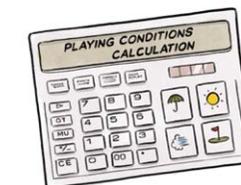


## ● HDCPインデックスの基本計算は？

現行システム	WHS
最新20枚中ベストディファレンシャル10枚の平均に係数0.96を掛ける	最新20枚中ベストディファレンシャル8枚の平均 (係数0.96は廃止)

現行は、最新20枚中、ベストディファレンシャル(成績の良い方から)10枚の平均に係数0.96を掛ける。

WHSは、最新20枚中、ベストディファレンシャル8枚の平均。係数0.96は廃止。この変更により、現行より若干、数値が小さくなるプレーヤーが多いと見られる。



## ● コースHDCP (変更) とプレーイングHDCP (新規)

	現行システム	WHS
コースHDCP	HDCP計算に使用するHDCP	HDCPインデックス×(スロープレーティング÷113)
プレーイングHDCP	実際のプレーで使用するHDCP	無し
		HDCPインデックス×(スロープレーティング÷113) + (コースレーティングパー)
		コースHDCP×HDCPアローワンス ※プレー形式に応じて

(コースレーティングパー)を計算式に入れることにより、異なるティーを使用した場合のコースHDCP追加調整が不要になり、異常なネットスコアが出にくくなるなどのメリットがある。



16番で7つ目のバーディーを奪い、このガッツポーズ。



豊島に「今日は脱帽」と祝福する和田博(右)と竹内規晃(左)の各選手。



歴代優勝者名が並ぶ優勝杯に、3度刻まれた自分の名を確認。

## 最終ラウンド、8バーディー不惑を超えた豊島 豊がV4

トップと3打差からの大逆転独劇。ラウンド途中、もう自分より上のスコアはないと確信。

舞台は、近年では日本女子オープン、コース改造後は日本オープンを開催した横浜CC西コース。関東でも屈指の難コースだ。

競技は、2日間トータルで1アンダーパーの高野隆選手(鷹之台)と金田崇宏選手(筑波)がトップに並び、同2オーバーの坂輪成章選手(浜野)とともに最終組でラウンド。その前を、同じく2オーバーの和田博(袖ヶ浦)、竹内規晃(東京国際)、そして豊島豊(東千葉)の3選手の組が回るようになった。

アウトの最初のキーホールは、コース改造後2番目に難易度が高い4番、グリーン右に池が待ち受けるパー4(第2ラウンドまでは難易度2番目。第3ラウンドに限れば8番目)。そのセカンド地点に日本タイトルホルダー

の和田、豊島の両選手が来る。打ち下ろしの464ヤード。残り距離は、ともに100ヤードあまり。やや池を気にした和田選手のショットに対して、低い弾道でラインを出した豊島選手は、ピン真下2メートルに付け、なんと3連続バーディー。

続くティーでは高揚した声色で会話しつつ、後続の最終組の4番グリーン上のプレーに視線を向けていた。

豊島選手は、さらに5番、6番も獲って5連続バーディー。9番はボギーとしたが、前半は31(パー35)でハーフターン。後半も安定したプレーで独走状態となり、最終ラウンドだけで8バーディーの大逆転独劇であった。

優勝談話では、4番グリーン上の最終組のプレーを見



1



3



2

1 和田博選手(59歳)。決勝競技出場4番目の年長者で4位タイ入賞。2 最終組でラウンドし、2位になった金田崇宏(左)と3位の高野隆(右)の両選手。3 豊島選手が意識していた4度目の制覇を先に達成している高橋雅也選手(4位タイ、51歳、右)。59歳の澤田信弘選手(左)と出場選手で2番目に若い25歳の千北嘉太(中)とラウンド。

### オーバー60歳の3選手はともに第3ラウンドへ

決勝競技出場最年長の田村敏明選手(左写真の左、69歳)と同2番目の田代猛選手(同右、66歳)。田村選手は最終日71の好スコアで18位タイ。翌週の関東ミッドシニア選手権では、田代選手が優勝、田村選手は2位タイ。同じく年長3番目の杉山稔選手(右の写真、60歳)は8月末の関東シニア選手権で2位になっている。



て、もう自分より上のスコアはないと確信していたという。

最終ラウンドの65ストロークは同西コースのアマチュアのコースレコードとのこと。この難コースを攻略して関東ミッドアマチュアの4度目のタイトル獲得となった。本競技には予選競技(会場:大根根)をトップで通過。自身で気持ちを入れて計画的準備で臨んだという。今年44歳。不惑を過ぎての勝利であった。

次は11月の日本ミッドアマチュア選手権で3度目の日本タイトルを視野に入れているが、同時に「来年開催の下関の方が自分向き」と、自身のゴルフを計ってもいる。

なお、本競技の結果で上位36名が日本ミッドアマチュア選手権競技(岐阜県スプリングフィールド)の出

場権を獲得した。

出場するのは、仕事に家庭にと忙しい、現役社会人ばかり。20歳代後半から、上は60歳代までの先輩後輩と一緒に競技する姿に、年齢を超えられるゴルフの良さ、素晴らしさを改めて認識させられた試合であった。

注:豊島選手は日本ミッドアマチュア選手権を制覇

#### 決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	豊島 豊	東千葉	73	71	65	209
2	金田 崇宏	筑波	73	68	71	212
3	高野 隆	鷹之台	69	72	75	216
4	高橋 雅也	嵐山	75	74	69	218
	和田 博	袖ヶ浦	68	76	74	218



# 全選手が雄大な難コースに挑む試合 準備力、が水上美慧の圧勝を生む



1 気持ちのいい天候のもと、上位選手も笑顔でラウンド。左から尹永淑(9位タイ)、中村紗帆(4位)、平林治子(3位)、鈴木麻友(2位)の各選手。2 5位タイに入賞した近賀博子選手。3 同5位タイ入賞の石川葉子選手。4 18番グリーン脇で仲間のホールアウトを見守る選手たち。5 競技終了後には、この競技を通じて仲良くなった選手たちが記念写真を撮りあう風景が見られた。

水上はミッドアマチュア3季目。この先、このタイトルを何度獲るのか。そんな期待がふくらむ選手権だった。



## 爽やかな高原の秋を満喫しながらの選手権



諏訪湖CCは霧ヶ峰高原の南端に位置し、眼下に諏訪湖、四方に富士山を含む数々の名峰を望むゴルフコース。2番ホールでは諏訪富士(蓼科山)に向かってティショットを放つ(写真左)。早朝のバッティング練習風景(写真右)。

前日までの雨模様から一転、快晴微風の絶好の天候の中、関東女子ミッドアマチュアゴルフ選手権の決勝競技が開催された。会場となった長野県の諏訪湖CCは、1963年開場と60年近い歴史を誇る雄大な高原コースだ。

試合は、初日71と2位に3打差をつけた水上美慧選手が、2日目も安定したゴルフで他の追従を全く許さず、最終的には7打差の大差をつけて初出場初優勝を飾った。「本競技は初出場でしたが、出るからには勝ちたいと思っていました。そのために練習ラウンドには3回来ました。最初はコースの大きなうねりやフェアウェイ

の狭さにびっくりしました。特に距離感が難しいと感じました。それでも、グリーンはもちろん、各エリアでのショットも使用番手と共にキャリーとランがどのくらいかなど細かくチェックしながらラウンドしました。練習場でも一打一打、コースをシミュレーションして練習していたので、そうした準備力が結果に繋がったと思います。ジュニア時代から試合前はスイングやショットのことはばかり考えていて、今回のようにコースに合わせた実践的な準備をしたのは初めてでした」と水上選手は勝因を語る。

出場選手114名のうち、2日間でアンダーパーはもち

ろん、パープレーも水上選手1人だけだ。見方を変えれば、天候が良かっただけに、コースの難易度の高さが窺える。事実、初日の平均ストロークは84・73という高さである。

距離は6070ヤードだが、数字に表れない難しさが諏訪湖CCにはあった。たとえば、11番のパー4は327ヤードながら、初日のホール別難易度ではパー4の中で3番目に難易度が高い。表示距離は短くてもプレーイングディスタンスは400ヤード近いという。それに加えて、グリーンへの傾斜もきつく、転がりもよかったために、選手にはずっと気の抜けないプレーを強いたコー

スだった。

選手同士が競い合うというよりは、全員がコースに挑んでいった試合だったと言えるかもしれない。

### 決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	水上 美慧	鶴舞	71	72	143
2	鈴木 麻友	富士チサン	76	74	150
3	平林 治子	都留	76	77	153
4	中村 紗帆	伊勢原	77	77	154
5	近賀 博子	久邇	78	77	155
	石川 葉子	那須小川	74	81	155



タフなコース&天候  
制したのはシニア10年目の  
堀江隆

バミューダ芝の高速グリーンと雷雨による2時間35分の中断  
ベテラン選手が強さを発揮した



1 夕闇が迫るなか競技は終了。  
2 最終ホールも1パットのパー。  
ついに3パットなしで優勝。



シニア競技の魅力を問われれば、山あり谷ありの道のりを歩んできた人生そのものと答えることにしている。関東シニアゴルフ選手権の出場資格は、今年55歳以上のアマチュアゴルファー。働き盛りを過ぎ、子供が独り立ちした人も少なくない。これまでの経験を生かしなが、残りの人生をどのように充実させていくかを考える世代。その一つの選択肢にゴルフがあったということではなからうか。

ただ、今年の関東シニア決勝は、そんなゴルファーたちに新たな試練を次々と与えた。

会場の飯能GCは最高の舞台を用意し、バミューダ芝のグリーンのスティングメーターは11.5フィートと、8

月としては異例の速さ。複雑なアンジュレーションと相まってアプローチに苦しみ、3パットを連発する選手も相次いだ。コロナ禍による2年ぶりの開催で連覇を狙った舘英樹選手(富士笠間)も2日間計13オーバーの26位タイに終わり、「グリーンが速く、アンジュレーションもきつくて歯が立たなかった。わけの分からないうちに終わってしまった」と、苦しんだ1人だった。

さらに最終日は試合途中で豪雨が襲った。線状降水帯の発生で突然に降り始めた雨は天気レーダーでも予測がつかず、結局は全員をクラブハウスに引き上げさせて午後12時49分から2時間35分の中断となった。

そのような中で試合を制したのは、初日73で首位に



3 バック9は33打、トップと1打差の2位になった杉山稔選手。  
4 実質的に今季がシニアルーキーの柳澤信吾選手(3位タイ)。  
5 終始安定したプレーで、同じく3位タイの澤田信弘選手。  
6 初日の第13組は、レジェンドと今季シニアデビュー3選手の組み合わせ。左から小野寺智夫(55歳)、河内喜文(56歳)、白井敏夫(73歳)中村正美(55歳)の各選手。

選手を苦しめた高速グリーンと雷雨

この時期の高速グリーンに選手たちは戸惑いを隠せなかった(写真左)。しかも、豪雨が去るとグリーン上の水はすぐに引き、ほぼ降雨前の速さに戻った。



1打差の2位タイで最終日をスタートした64歳の堀江隆選手(マナ)だった。前半をパープレーで折り返すと、後半の10番パー4でバーディー。13番ボギーの直後に雨で中断したが、再開後にスコアを崩す選手が多かった中で残り5ホールをノーボギー。16番パー3でバーディーを奪うと、計144ストロークのパープレーで2位に1打差をつけて初優勝を飾った。

「2日間で3パットがなかったのが勝因」と堀江選手。「いろいろなパターを試してみ、このグリーンが一番合っていたのがこれだった」と、1990年代のオデッセイ「#2」を見せてくれた。昨年の中止で2世代の選手がシニアデビューする中で優勝を飾ったことには「20歳ま

で陸上自衛隊で鍛えたからね。その後もいろいろなスポーツをやってきた」と言う。パターを臨機応変に変え、若い時に身につけた体力を生かし—まさに人生そのもの。やはりシニアはおもしろい。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	堀江 隆	マナ	73	71	144
2	杉山 稔	総武	74	71	145
3	柳澤 信吾	袖ヶ浦	74	73	147
	澤田 信弘	茨城	73	74	147
5	小原 永司	つくばね	73	75	148
	風間 智行	小田原・松田	72	76	148



スタート前、同じ組の松山菜穂子選手と歓談する平林選手。笑顔でラウンドが彼女のスタイル。

## 今季シニア競技デビューの平林治子がKGAタイトル3度目の戴冠

多忙なビジネスパーソンの中平林。他選手が手を焼いたグリーンを見事に克服し、2位に5打差の圧勝。

今年50歳になるシニアルーキーから73歳になる大ベテランまで総勢109人が集結。台風14号の接近で天候を気にしながらのラウンドだったが、みなきびきびと素早いプレーで見ていてとても気持ちがいい。腕前もマナーも優れたレディーたちの戦いだった。

とはいえ、草津CCのグリーンは曲者。弱いと切れ、強いとカップに蹴られる。初日から皆苦勞の連続で、普段よりも大幅にスコアを崩す選手も多かった。そんな中で初日2日目とも安定したプレーを見せたのが平林治子選手。初日に1打差でリードされていた山下ユナ選手を前半で捉え、後半すぐに逆転するや、13番の

イーグルで優位に立つ。パットに苦しむ山下選手を突き放して5打差で圧勝した。

勝因は何と言っても皆が苦勞したグリーンを克服していたこと。

「打ち急がずにヘッドの重さを感じながらパットしたのがよかったです」

ロングパットではナイスタッチ、ショートパットはしっかり打てた。ショットも精度が高い。ミスもあったがボギーで収める手堅さが光った。

「昨年がシニアのルーキーイヤーだったのですが、コロナで試合がなくて。やっぱり試合っていいですね。」



1 シニア競技ルーキーの山下ユナ選手。初日72で首位スタートとなったが、2日目はパットの調子が上がらず2位。  
2 3位入賞の近賀博子選手。10月の日本女子シニア選手権ではプレーオフで惜敗。3 2日目、平林と同じ74をマーク。順位を14上げて4位入賞の小森幸恵選手。4 5位に入賞した歴代チャンピオンの田中真弓選手。5 惜しくもパットが決まらず悔しがる5位タイの馬場由美選手。

緊張感が何とも言えない。1打1打集中してプレーできました」

学生時代はテニスを本気でやっていた。膝を悪くし、結婚してからはゴルフ好きのご主人の影響もあってゴルフに転向。29歳から始め、17年の関東女子ミッドアマでタイトルをつかむと、19年でも同タイトル2勝目、21年の今年に関東女子シニアを獲得した。

ご主人とも本気でプレーする。バックティーで競り合うという。

「明後日、クラチャンの決勝トーナメントで主人と当たるんです。飛距離では叶わないけど、何とか食らいつ

いていこうと思っています」  
つぶらな瞳を輝かせて笑った。

### 決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	平林 治子	都留	73	74	147
2	山下 ユナ	カレドニアン	72	80	152
3	近賀 博子	久邇	78	75	153
4	小森 幸恵	ニュー・セントアンドリュース	80	74	154
5	田中 真弓	成田東	78	77	155
	馬場 由美	習志野	75	80	155

### 存在感が光ったベテラン3選手



佐久間みち選手。決勝競技進出の最年長者だが、その年齢をまるで感じさせない。



鳥居明子選手。同2番目の年長者は自ら4時間運転して会場入りしたそうだ。



増田京子選手。同3番目年長者は17位タイの成績で日本女子シニアの出場権獲得。



潮目がかわった  
日本海望む  
13番ホール、  
タイトルは田代猛へ



65~70代の選手たちが  
競技ゴルフに一生懸命  
取り組む姿勢と、その彼らが  
醸す競技を楽しむ雰囲気が  
強く印象に残った。



1 競技を終えた田代選手を熱く迎える競技仲間たち。左から木村利治、田村敏明(背中)、亀井隆の各選手。2 学生時代から切磋琢磨してきた内藤正幸競技委員長から優勝杯を授与された田代選手

ヨネックスCCのある長岡市寺泊は、古くは北陸街道の宿場町。佐渡ヶ島がコースの背後、すぐそこに見える自然豊かなロケーションにある。

第2ラウンドの当日は日本海から暖かい潮風が時折感じられる絶好のコンディション。試合は、初日を72ストロークの首位タイで折り返した実力者、富田久三選手(静ヒルズ)が最終日も堅実なプレーで他のプレーヤーを引き離す展開に。一時は3ストロークのリードもあり3回目のタイトル獲得か、という空気が転じたのが、佐渡ヶ島を望む風光明媚な13番ホールだった。バーディーパットからまさかの3パット。続く14番パー3でもあわやOBかと思われるほどショットが乱れた。

そんな中、同じ最終組で富田選手の影をしっかりと

追っていたのが、今年66歳、実質的にミッドシニアキーの田代猛選手(裾野)だった。冷静なショットと堅実なパットで崩れない。短いパー4の15番ホールでは誰よりもいいポジションの左サイドにティーショットを運び、1メートルのバーディーパットを決める。ここで首位に立つとその後のティーショットもベストポジションにボールを運んでパーを重ねる。

最終18番ホールもフェアウェイ真ん中からグリーンオン。そして、優勝者を祝福しようと待ち構える選手、関係者の前で堂々のフィニッシュ。KGA決勝競技初タイトル獲得となった。

冷静な判断と乱れないショットは、本人曰く、「自分のゴルフで出来ることは自身が一番知っている



3 第2ラウンドで70をマーク。初日の13位タイから2位タイに急上昇した田村敏明選手。4 2位タイの富田久三選手。いつも淡々と自ら目土をしながらプレー。5 今年65歳、ミッドシニアルキーで4位入賞の奥正昭選手。6 2日間、安定したスコアで5位に入賞した神羊二選手。



最年長は79歳

最年長の高橋孝和選手(79歳)は予選競技でエージシュートの77をマークしたことを満足げに語ってくれた。



タフなコース相手に  
エージシュート達成



土屋知廣(71歳、10位タイ)  
第2ラウンド:71ストローク  
第2ラウンドは10番ティーからのトップスタートで4バーディーをマーク。



中原正人(73歳、5位タイ)  
第2ラウンド:71ストローク  
第2ラウンドでこの日最多の5バーディーをマークし、5位に入賞した。



佐藤和男(79歳、54位タイ)  
第1ラウンド:79ストローク  
本決勝競技進出の2番目の年長選手。歴代チャンピオンでもある。

す。身体と相談しながら目の前のことをひとつひとつやりました。タイトル、優勝、日本ミッドシニア出場とか考えずに、首位に立っても一喜する事なくいいプレーとなりました」と汗を拭った。

コロナ禍で表彰式は無くとも、優勝カップを掲げた記念撮影では、大学時代に同じリーグで切磋琢磨したという同級生の内藤正幸競技委員長と写真に収まると、とても嬉しそうに、学生のように微笑んだ。素敵な関東ミッドシニアチャンピオンの誕生となった。

競技結果では、最終日に2アンダーと巻き返した地元田村敏明選手(小千谷)が2位タイ、ランナーアップに。また、上位31名が日本ミッドシニアゴルフ選手権競技への出場権を獲得した。

65~70代の選手たちが競技ゴルフに一生懸命取り組む姿勢と、その彼らが醸す競技を楽しむ雰囲気が強く印象に残った選手権であった。

決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	田代 猛	裾野	72	70	142
2	田村 敏明	小千谷	76	70	146
	富田 久三	静ヒルズ	72	74	146
4	奥 正昭	上総富士	77	71	148
5	中原 正人	大相模	78	71	149
	神 羊二	ノーザン錦ヶ原	75	74	149



# 老若男女が 名コース相手に、 それぞれのベストに 挑んだ一日

今年も多彩なゴルファーが集い、難コース相手に真剣かつ楽しく、目いっぱいプレーを展開。

1 新潟県から参加した竹澤親子。父親の康明選手(右)と明純選手(左)。  
2 長野県からの遠征となった花岡夫妻。3 群馬県の初穂CCから出場した7選手がそろって記念撮影。こうした風景もこの競技ならではの。4 男子最年長の前田榮三選手(82歳)。5 女子最年長の角田かつ枝選手(72歳)。

関東ゴルフ連盟が主催する唯一のアンダーハンディキャップ戦。今回も、37歳から82歳まで、ハンディキャップは5から26まで、様々な年齢、力量のゴルファーが、袖ヶ浦カンツリークラブ袖ヶ浦コースと、自分のハンディキャップとの戦いに挑んだ。

夫婦、親子出場がそれぞれ1組。これも、他の競技にはない特徴だ。

父の康明選手とともに出場した竹澤明純選手は、父親の手ほどきで小学6年生からクラブを握った。息子のハンディキャップは5で、14台の父に大きく差をつけたが、「今もほとんど父とラウンドをしている」と話す。

夫の英雄選手と一緒に臨んだ花岡きよ美選手は、二人の子育てが一段落してから競技ゴルフを楽しむよう

に。「夫は、私のゴルフをいつも応援してくれる。今回の長野ブロック予選も、夫は私の“運転手役”だったけれど、なぜか二人とも予選を突破してしまっ」と笑う。

女子の最年長、72歳の角田かつ枝選手のハンディキャップは、何とシングル9だ。「60歳、70歳と、どんどんゴルフが楽しくなってきたの」と、前日の練習ラウンドを含め、2日間、乗用カートのないコースを歩き通した。今回の成績は「ブービー」だったが、アマチュアゴルファーが目標とすべき人だろう。

この競技の魅力の一つが、名門、有名コースが舞台になることだ。今回の袖ヶ浦コースも、毎年、男子のトーナメントが開催されることで知られる。女子で優勝した志田千恵子選手は「98もたたいて優勝なんて」と恥



男子優勝:吉井重治選手。「すべてのプレーが上手く行きました」と笑顔いっぱい。同2位:谷井敏昭。同3位:浜出達弥。同4位:高山祐一。同5位:竹澤明純の各選手。

女子優勝:志田千恵子選手。女子は1位~4位まで同ネットの接戦。順位はマッチングスコアカード方式で決定した。同2位:登山春美。同3位:北川有希。同4位:木島千晶。同5位:新谷益代の各選手。

じらいながらも「名門コースでプレーができ、本当に楽しかった」と笑顔を見せた。

男子優勝を果たした吉井重治選手は、三度、手術を繰り返す大病を患い、ようやく半年前、クラブが振れるようになったという。元シングルプレーヤーも、病気のために今のハンディキャップは16に。吉井選手は「元気があったころも、グロスではトップ選手にかなわなかった。だから、ハンディキャップで戦えるこの競技を目標にしてきた」と、初タイトルを喜んだ。

競技ゴルフ復帰を励みにして病気を乗り越えた人、何歳になっても向上心を忘れない人、親子、夫婦のきずなを深めている人。ゴルフの持つ様々な魅力を教えてくれる競技でもあった。

### 決勝競技入賞者(男子)

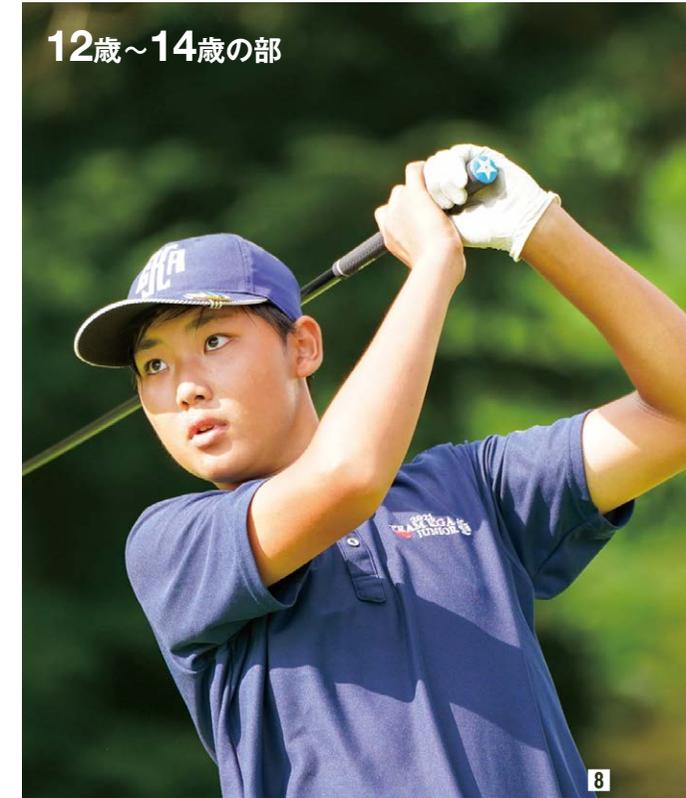
ランク	名前	所属	GROSS	HDCP	NET
1	吉井 重治	JGAプレミアム会員	79	16	63
2	谷井 敏昭	長野国際	83	13	70
3	浜出 達弥	オリムピック	81	11	70
4	高山 祐一	赤城国際	76	6	70
5	竹澤 明純	長岡	76	5	71

### 決勝競技入賞者(女子)

ランク	名前	所属	GROSS	HDCP	NET
1	志田 千恵子	鳩山	98	24	74
2	登山 春美	鶴舞	94	20	74
3	北川 有希	東京都ゴルフ連盟	95	21	74
4	木島 千晶	カレドニアン	83	9	74
5	新谷 益代	富士見高原	86	11	75



15歳~17歳の部



# 笑顔弾ける！ 本大志と渋井晃太郎が ともに圧勝！

中島啓太(日体大3年、TKJ出身)の活躍により、男子ジュニアも「世界」が身近な目標になりつつある。優勝した両選手が抱く「将来の夢」も、単なる「夢」では終わらない。

屈指の難コースとして知られるカレドニアンGC。傾斜に対応したショットが求められ、うねった高速グリーンが選手を苦しめる。

ところが、内藤正幸競技委員長が「若い力は素晴らしい。どんなに(セッティングで)難易度を上げて、堂々と挑戦してくる」と驚きをもって話したように、実に高いレベルの優勝スコアとなった。

15~17歳の部を制した本大志選手の最終スコアは、197ストローク、16アンダー(パー71)。2008年(平成20年)に関東ジュニア選手権が3日間競技となつてから、最少ストローク記録が誕生した。

第1ラウンドで2位グループに4打差をつける65で飛

び出すと、第2、第3ラウンドもリードを広げ、2位に11打差の圧勝。まだ、高校1年生。2学年上で一昨年の優勝者小林大河選手、今年の関東アマチュアゴルフ選手権覇者の中野麟太郎選手らに、最後まで隙を見せなかった。「リードがあったので、緊張しなかった」と本選手。明るく、伸び伸びとした性格。初日に作った余裕が、持前の爆発力を引き出した。

優勝を支えたのが猛練習。関東アマチュアゴルフ選手権決勝(14位)など最近の競技で、「調子がいいのに結果が出ず」、苦しんだ。1日700球の打ち込みと、パットの練習を重ねてこの競技に臨み、「結果」につなげた。

12~14歳の部を制した渋井晃太郎選手も、2位に7打

1 本大志選手は、最終18番ホールでこの日8つ目のバーディーをマークすると、カメラに向かってサムアップ。2 2019年の小林大河選手に続いて、2回連続で高校1年生が優勝。3 競技を終えた本選手を待ち構えていたのは、多くの競技仲間によるウォーターシャワー。4 本選手(左)と同じ最終組の中野麟太郎選手(中)と吉沢己咲選手(右)はともに4位。

5 前回優勝の小林大河選手は2位。6 本選手と同じく高校1年で3位に入賞した佐藤快斗選手。7 プロ競技並みのコース設定に、選手たちはいかに楽しそうだった。

差をつける完勝だった。211ストロークは、同じ距離、条件で行われた15~17歳の部で4位に入る見事なスコアだ。

5歳の時、家族旅行で訪れた沖縄のホテルにあったパターマットで遊んで夢中になったのが、ゴルフを知るきっかけ。親にせがんで1年後にスクールに入り、小学4年生で初めてコースに出たというから、遅いスタートだろう。コースデビューからわずか4年で関東一になった。この1年で身長が10センチ伸びて176センチに。まさに伸び盛りの優勝だった。

少し上の「お兄さん」である金谷拓実選手(現プロ)、中島啓太選手が世界アマチュアランキングで1位になったことで、日本の男子にも世界がグッと身近な目標に

なりつつある。本、渋井両選手は、将来の夢について「米(プロ)ツアーで活躍すること」と口をそろえた。

決勝競技入賞者(15歳~17歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	本 大志	目黒日大高1	65	68	64	197
2	小林 大河	西武台千葉高3	69	73	66	208
3	佐藤 快斗	埼玉栄高1	71	73	66	210

決勝競技入賞者(12歳~14歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	渋井 晃太郎	永田中2	70	68	73	211
2	常盤 和也	東中3	74	73	71	218
3	橋詰 海斗	栖吉中3	74	69	76	219



雨にも負けず  
私も将来の  
オリンピックに!

第3ラウンドは雷雨によりキャンセル。競技は2日間、36ホールに短縮されたが、そんななかでも選手たちの夢の実現に向かう熱い思いに触れることができた。



1 「15歳~17歳の部」優勝の高橋琴音選手。第2ラウンドはノーボギー(5バーディー)。安定したプレーで、1打差で優勝。2 「12歳~14歳の部」優勝の長澤愛羅。ただひとり、2日間ともアンダーパーでラウンドし、優勝。3 コース上では、競技再開を目指して懸命の復旧作業が行われた。

3日目は台風接近の余波の中、朝から降り始めた雨がスタート時間の8時には音を立てての本降りに。ひとまずスタート時間を遅らせたが、次第に雷雲も接近。いよいよ雷も鳴り始め、選手達は練習場から全員引き上げてクラブハウスへ。

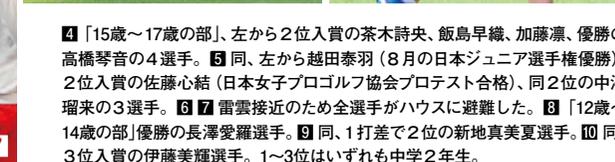
競技委員会も開催可否等を検討すること数回。しかし、雷雲と線状降水帯の進行、接近は変わらず、委員会は第3ラウンドの中止をやむなく決定せざるを得なかった。

その間、開催コースの千葉カントリークラブ野田コースの管理スタッフによるバンカーからの懸命の排水作業は、何とか第3ラウンドをプレーさせてあげたいという熱い思いからだった。同コースの小糸支配人は、「ジュニア最後の試合となる選手もいるので、何とか開催さ

せてあげたかったのですが、こうした予期しない出来事もこれからの人生で沢山あるでしょうから」と暖かいエールを送られた。同支配人には、心から感謝したい。

競技結果は、前日の第2ラウンドまでの成績が最終スコアとして採用され、女子12~14歳の部は長澤愛羅選手(鯉沢中2年生)が2日間トータル5アンダーで、女子15~17歳の部は高橋琴音選手(日本ウェルネス高3年生)が同9アンダーの見事なスコアで、それぞれ優勝となった。

ちょうど同じ週、霞ヶ関カンツリー倶楽部では東京2020オリンピックのゴルフ競技も開催されており、日本男子代表の松山英樹選手と、「TEAM KGA ジュニア」の先輩でもある星野陸也選手が各国代表選手とメ



4 「15歳~17歳の部」、左から2位入賞の茶木詩央、飯島早織、加藤凜、優勝の高橋琴音の4選手。5 同、左から越田泰羽(8月の日本ジュニア選手権優勝)、2位入賞の佐藤心結(日本女子プロゴルフ協会プロテスト合格)、同2位の中澤瑠来の3選手。6 7 雷雲接近のため全選手がハウスに避難した。8 「12歳~14歳の部」優勝の長澤愛羅選手。9 同、1打差で2位の新地真美夏選手。10 同、3位入賞の伊藤美輝選手。1~3位はいずれも中学2年生。

ダルをかけての闘いがニュースで伝えられていた。

長澤愛羅選手は「オリンピックアスリートは凄いです」と同世代の各競技代表選手の活躍に大いに刺激を受けていて、「私もプロゴルファーになってオリンピックに出たい」と近い将来を描いていた。

一方、高橋琴音選手は「今まで競技でも優勝争いの経験はなく、高校3年生で初タイトルです。次の日本ジュニアも最初で最後の出場なんです」と嬉しそう。最近、心理学の勉強をしていて、「ゴルフにも役立ち、グリーン周りでも慌てなくなりました」と語る。

彼女たちに接し、将来のオリンピックとなるべく日本のジュニア選手達の活躍がますます楽しみになった。

決勝競技入賞者(15歳~17歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	高橋 琴音	日本ウェルネス高3	68	67	-	135
2	中澤 瑠来	埼玉栄高3	69	67	-	136
	佐藤 心結	明秀学園日立高3	67	69	-	136
	茶木 詩央	共立女子二高1	67	69	-	136

決勝競技入賞者(12歳~14歳の部)

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	長澤 愛羅	鯉沢中2	68	71	-	139
2	新地 真美夏	相模中2	68	72	-	140
3	伊藤 美輝	高田中2	69	72	-	141

※第3ラウンドは、雷雲接近および豪雨によるコースコンディション不良と選手の安全を考慮し、中止。第2ラウンドまでの成績により競技成立とし、日本ジュニアゴルフ選手権競技の出場資格は、「マッチングスコアカード方式により」決定。



荻原すいみ(優勝)



根本悠誠(優勝)

## 女子は荻原すいみ、男子は根本悠誠がアンダーパーの好スコアで優勝

小雨が降り続くなか、適度なアップダウンがあり、グリーンを読みも難しいコースを相手に、予想以上の好成績が多数。出場選手のレベルアップに目を見張る決勝大会だった。



藤本華(2位)



西脇優衣(3位)



1



2



3



ともにアンダーパーの70で2位タイになった島田楽生人(1)、西山修生(2)、翁浩宇(3)の各選手。戸村空汰選手(4)は根本選手とともに、9月に開催された「全国小学生ゴルフ大会」で優勝を分け合った。

コロナ禍で昨年の大会が中止となった関東小学生ゴルフ。2年前の5、6年生が卒業して出場選手の顔触れが変わっただけではなく、スコアも大きく変貌した。

男子は試合前日の練習ラウンドで川崎市立霞ヶ関南小6年の戸村空汰選手が前半32、後半29の11アンダー、61で回っていた。今年の開催コースは男子プロツアーのメジャー競技「日本ツアー選手権」が西コースで毎年開催される穴戸ヒルズCC。今回は東コースで男女とも5683ヤード、パー72のセッティングとはいえ、難コースでのビッグスコアは大会当日の朝も話題の中心となっていた。

そんな戸村選手らを試合で上回り、大会を制したの

は根本悠誠選手(市原市立加茂学園6年)だった。前後半をともに5バーディー、ノーボギーの31で回り、こちらも10アンダー、62のビッグスコア。「スコアは満足です。コースは難しかったけど、3メートルくらいのパットがよく決まりました」と落ち着いた表情で話した。

習い事の一つとして5歳からゴルフを始め、これまでに国内の試合でいくつも優勝を重ねるとともに、海外でもIMGA世界ジュニア選手権の2勝を含む5勝を挙げている。父の大(たかし)さんはゴルフをせず、専属コーチもつけていないため、独学で力をつけてきたという。そのためかパティングもラインなどを読むことに時間をほとんどかけず、構えたらすぐに打ってしまう。将来の夢は「プロになって米ツアーでグランドスラムを

達成すること」と、大きかった。

一方の戸村選手は「今日はパットが決まらなかった」と、パープレーの6位タイ。それでも「すごく楽しかった」と笑顔だった。上位5人がアンダーパーだったことも、小学生のレベルが年々上がっていることの証だろう。

女子の部も、深谷市立明戸小6年の荻原すいみ選手が1アンダー、71で優勝。最終18番で3メートルのバーディーパットを決め、2位の藤本華選手(習志野市立谷津小6年)を1打上回った。姉・いなほさんが本庄第一高ゴルフ部で活躍する荻原選手は「最後は決めればアンダーパーだと思って緊張しました。将来は小祝さんから選手のように、オンとオフをうまく切り替えられるプロになりたい」と夢を語った。

男子は上位17人、女子は同12人が全国小学生ゴルフ大会への出場資格を獲得。ゴルフ界の未来が楽しみなことを思わせてくれる2021年の大会だった。

### 決勝大会入賞者(男子)

ランク	名前	所属	Total
1	根本 悠誠	市原市立加茂学園・6	62
2	島田 楽生人	伊勢崎市立豊受小・6	70
	西山 修生	国立山梨大学附属小・6	70
	翁 浩宇	横浜市立平安小・6	70

### 決勝大会入賞者(女子)

ランク	名前	所属	Total
1	荻原 すいみ	深谷市立明戸小・6	71
2	藤本 華	習志野市立谷津小・6	72
3	西脇 優衣	小千谷市立小千谷小・6	74

## 2020年度 日本女子プロゴルフ協会プロテスト合格 TKJ出身プロから後輩たちへ



岩井千怜 (いわい・ちさと)

2002年7月5日、埼玉県生まれ。17年関東ジュニア選手権2位。19年、21年関東女子ゴルフ選手権2位。21年カストロールレディース優勝(ステップ・アップ・ツアー)

「プロになると、たくさんのゴルフ関係者の方々にご挨拶し、お話をさせていただきますが、私はTKJの研修会のお陰で、戸惑うことなく対応できていると思います。私たちプロはもちろん、TKJの皆さんもゴルフ場では注目され、応援されます。日々の行動が大事です。そのためにTKJの研修会は自覚と誇りをもって受講し、きちんと身につけていってください」



岩井明愛 (いわい・あきえ)

2002年7月5日、埼玉県生まれ。19年関東高校ゴルフ選手権優勝。20年日本女子オープンローアマチュア。21年山陽新聞レディースカップ優勝(ステップ・アップ・ツアー)

「残念ながら私は、ひとつの目標だったJGAのナショナルチーム入りはできませんでしたが、皆さんはその一歩手前で、もう少しで手が届くところにいる選手だと思います。ナショナルチームに入るには、ゴルフの技術も大事ですが、人間性も大事で、挨拶はその第一歩だと思います。挨拶から始まり、周囲とのコミュニケーションを大事に、成長していってください」



佐久間朱莉 (さくま・しゅり)

2002年12月11日、埼玉県生まれ。19年、21年関東女子ゴルフ選手権連覇。20年JGAナショナルチームメンバー。21年京都レディースオープン優勝(ステップ・アップ・ツアー)

「TKJで最も役に立ったのは、コミュニケーションスキルの授業でした。また、高いレベルの競技会や強化宿舎に参加させてもらったことで、自分に足りない点を知ることができ、その後の成長につながったと思っています。KGAでは会報などを通して多くの人に知ってもらい、応援していただけました。そのことはとても嬉しかったですし、力になったと思います」

女子ツアーの下部ツアー(でさつそく優勝。来季のさらなる飛躍が期待されている。認定式後には、先輩プロの3選手がそろって「とても役に立った」と口にする「コミュニケーションスキルアップ研修会」が9時30分～16時30分まで、途中1時間の昼食・休憩を挟んで行われた。同スキルは、各自が実力を発揮しやすい環境をつくるための大事な能力で、一流ゴルファーとして活躍するには欠かせない要素だ。加えて今回は、あらゆる分野で求められている「異文化理解」



研修会では講義だけでなく、ロールプレイングの実習も行われた。

をテーマに、「日本と海外の価値観の違いを知る」など、多様性に対する意識改革を図る講座が設けられた。その後、11月23日には西那須野カントリー倶楽部において「TKJ合同ラウンド研修会」が開催された。これには認定選手のほかTKJの卒業生も加えた65選手が参加。学年を超えて交流を深め、来季に向けて刺激し合う一日となった。



西那須野CCは多様なスキルやコースマネジメントが求められる難コース。



## 国内外で活躍する先輩たちに、追いつき、追い越せ!



今季は国内外の競技で活躍が相次いだ「TEAM KGA ジュニア」の現役、および出身選手。来季は彼らに続くよう張り切る、才能ある選手を改めて認定選手として選出。さつそく活動を始めた。

「TEAM KGA ジュニア」(以下、TKJと略す)の現役選手や巣立ったばかりの卒業生たちがこのところ国内外の競技で大活躍している。プロのツアートーナメント、東京オリンピック、そしてアジアパシフィックアマチュア選手権など。これに、国内の多くのジュニアたちが刺激を受け、「自分たちも」と奮起している。

こうした状況下、昨年はコロナ禍で開催できなかったTKJの広範で本格的な新規選手を対象とした選考会が今年も予定通り実施された。

10月3日、千葉県総合スポーツセンターと平川カントリークラブの2会場に、小学生から高校生までの男女計53名が集まり、それぞれ体力測定と技術チェック(中・高校生のみ)、並びに集団面接が行われた。選考会議の結果、SからCまでの全4クラスで64名が2022年度のTKJ

J認定選手として選出された。(26～27ページで紹介)

### 認定式後に研修会を開催

続いて、11月3日に武蔵丘短期大学で行われた認定式には、この秋の日本女子プロゴルフ協会のプロテストに合格したTKJ出身のプロ3選手が出席。それぞれから後輩に向けて励ましとなる「お祝いの言葉」が贈られた。

出席したのは、佐久間朱莉と岩井明愛・千怜の3選手で、いずれも新人プロとして今季「ステップ・アップ・ツアー」(国内



選考会における体力測定。



認定選手たちに「エチケット・マナーが備わらない一流選手はいない」と自覚を促す佐藤副理事長。

認定選手になられた皆さん、おめでとうございます。細谷幹くんは、素晴らしいスピーチでした。

また、今日ここに列席していただいた佐久間朱莉さん、岩井明愛さん、岩井千怜さんは2年前までは皆さんと同じ立場にいました。3人はそれぞれ自分の

### 激励の言葉

KGA副理事長  
佐藤敏明



頼もしい決意表明を読み上げる細谷幹くん。

### 決意表明

認定選手代表  
細谷幹くん

私は、TKJとしての活動は来年度が最後になります。TKJのユニフォームとキャップを身につけ、その自覚と誇りをもって感謝の気持ちを忘れず、チームスローガンである「フィニッシング・ストロング」の精神とスポーツマンシップを心掛け、

立ち位置——いろいろな方に支えられていくという立場——を忘れず、そのうえで明確な目標をもって活動されてきた姿は感動的でした。

TKJはスタートして10年が経ち、360名のチームメイトが生まれました。スタートしたときの目標は世界で活躍できるゴルファーを育成することでした。10年経ちました。先輩たちの中から2名が今年の東京オリンピックに出場しました。星野陸也さんと畑岡奈紗さんです。世界レベルの選手に成長してくれました。他にも多くのプロフェッショナルが誕生し、それぞれの層で活躍しています。

「よし！次は俺たち、私たちが後を引き継ぐ」という気持ちで毎日過ごしてもらいたいと思います。

その第一歩はエチケット・マナーの研修です。なぜなら、これできない一流選手はいないからです。このことをしっかりと胸に刻み込んでください。そのうえで、それぞれの目標に向かって進んでいけば、必ず先輩たちに追いつき、追い越すことができると思います。頑張ります。

ハキハキ・キビキビ・明るい笑顔を忘れずに、謙虚さと積極性をもって人間性を向上させ、たくさんの方から愛され、応援される選手、そしてチームになれるようにチームメイトとのコミュニケーションに努め、切磋琢磨しながら、常に長期的・短期的な目標設定をして、さらなる向上を目指していきます。

今年の(ジュニアの)試合で、チームメイトで優勝した仲間を先輩・後輩みんなで祝福できたこと。みんなライバルだけど、同じチームの仲間です。良いチームだと思いました。そして、今度は私が祝福してもらえよう頑張ります。

(TKJでは)これまで6回、「コミュニケーション・スキルアップ研修会」を受講させていただき、エチケットやマナーなど、何も知らなかった私に優しく、ときに厳しくご指導していただいた講師の皆様。ありがとうございました。

(今後は)多方面でご活躍されるTKJの偉大な先輩がたに恥じぬように、チームの伝統を守りつつ、一歩でも近づけるよう、チーム一丸となって頑張るつもりです。

## 2022年度「TEAM KGA ジュニア」認定選手 (男子32名 女子32名 計64名 11月3日現在)

- クラスS男子**(4名) 左から、佐藤快斗(埼玉栄高1年)、細谷幹(日本ウェルネス高2年)、小林翔音(西武台千葉高1年)、本大志(黒目日本大学高1年)。
- クラスS女子**(4名) 左から、関口碧(埼玉平成高2年)、手塚彩馨(佐久長聖高1年)、上田澗空(共立女子第二高1年)、大郷光瑠(埼玉栄高2年)。

- クラスA男子**(12名) 左から、伊藤颯汰(早稲田実業高2年)、玄銅陽(日本ウェルネス高1年)、花村秀太(東海大学付属諏訪高1年)、岩井光太(埼玉栄高2年)、吉沢巳咲(本庄第一高2年)、栗原遙人(埼玉栄高1年)、上村大和(市川市立第五中3年)、常磐和也(鹿沼市立東中3年)、清水蔵之介(黒目日本大学高1年)、齊藤隼人(埼玉栄高2年)、泊隆太(共愛学園高2年)、末広大地(新発田高2年)。

- クラスA女子**(12名) 左から、伊藤二花(麗澤高1年)、伊藤美輝(横浜市立高田中2年)、間中りょう(埼玉栄中3年)、桑村美穂(日本ウェルネス高1年)、松原柊亜(松戸市立第二中3年)、新地真美夏(座間市立相模野中2年)、川畑優菜(麗澤高1年)、相原紗奈(共立女子第二高2年)、茶木詩央(共立女子第二高1年)、長澤愛羅(富士川町立敏沢中2年)、馬場咲希(日本ウェルネス高1年)、萩生田みらん(川崎市立柿生中3年)。

- クラスB男子**(8名) 左から、井上笑慈(伊勢崎市立あずま中3年)、宇田川理茶度(葛飾区立青葉中2年)、山崎咲寿(海老名市立有馬中2年)、洗井晃太郎(横浜市立永田中2年)、清野桜貴(八王子市立城山中3年)、八木沢浩心郎(水戸市立笠原中3年)、木暮凌太(柏市立柏中2年)、齋藤裕(埼玉栄中3年)。
- クラスB女子**(8名) 左から、小俣柚葉(代々木高1年)、小野田寧々(共愛学園高1年)、西脇真帆(小千谷市立小千谷中3年)、大橋莉生(浜松市立入野中2年)、田中澄南里(那須塩原市立三島中3年)、二宮佳音(みどり市立笠懸中3年)、鈴木姫琉(麗澤中3年)、國吉愛良(千葉市立松ヶ丘中2年)。

- クラスC男子**(8名) 左から、戸村空汰(川越市立露ヶ関南小6年)、根本悠誠(市原市立加茂学園6年)、中山怜音(立教新座中1年)、島田楽生人(伊勢崎市立豊受小6年)、東路敏(熊谷市立大幡小6年)、武井大也(みどり市立笠懸南中1年)、片野貫一朗(松戸市立東部小6年)、高坂信一郎(浜松市立浜松湖東中2年)。

- クラスC女子**(8名) 左から、荻原すみみ(深谷市立明戸小6年)、人見陽乃亜(下妻市立千代川中1年)、仁科優花(千葉市立美浜打瀬小6年)、清水心結(さいたま市立東浦和中1年)、西脇優衣(小千谷市立小千谷小6年)、中澤紗来(朝霞市立朝霞第二中1年)、長峰真央(千葉市立北貝塚小6年)、藤本智(習志野市立谷津小6年)。

### ●クラスS男子(4名)



### ●クラスS女子(4名)



### ●クラスA男子(12名)



### ●クラスA女子(12名)



### ●クラスB男子(8名)



### ●クラスB女子(8名)



### ●クラスC男子(8名)



### ●クラスC女子(8名)



## ミニブームの中で新たなやり方とアマチュアゴルフを思う

全英女子オープンでの渋野日向子の優勝に湧いたのが2019年8月。それから半年後にコロナ騒動が持ち上がる。コロナ禍によって、一般のライフスタイルにも大きな変化が起きた。

しかし、しばらくブームから2年経ち、ゴルフ界には、20年春の数カ月を除いて、かなりフォロワーの風が吹いていると言つてよい。新たにゴルフを始める若年層が増え、スリッパしていたゴルフアワードが覚めるなど、21年に入ってからには、全国各地のゴルフ場に数多くのゴルフアワードが来場している。

波が再び訪れても大きな混乱はないだろう。ゴルフ競技もプロアマを問わず、工夫を凝らして開催されている。ただ、人々のライフスタイルが変わり、価値観や志向に変化があるとすれば、順風なゴルフ界もこれまでのやり方への見直しが必要かもしれない。スループレーの手軽さやゴルフウェアでの来場の気楽さを味わったゴルフアワードが、いま求めているニーズを見極める必要があるだろう。新たにゴルフを始めた若年層ゴルフアワードに夢中になつてもらう方策も大切になる。



ターズ優勝や若手選手の活躍がある。特に20歳前後の女子プロが次々と出てきたり、現役プロを凌駕する飛距離や技術を持った男子学生ゴルフアワードがトーナメント上位に来れば、いやが上にも世間の注目が集まる。

古いゴルフアワードとしては、マスターズ制覇の方が天地がひっくり返るほどの偉業だと思つ、一般社会からすれば、若いスターの卵たちのほうが興味をそそることなのだろう。それでも、ゴルフへの関心が高まるのはうれしい。

ただ、コロナによるゴルフアワード増とは違い、これは偶然的な産物ではない。ゴルフを始めて1年2年でトップの世界に顔を出したわけではない。子どもの頃から腕を磨いてきた結果だ。

かつてのようにプロ野球やソフトボールから転身して活躍する例はほとんど見ないし、キャディをしながら地道にプロを目指すものもなかなか険しい道になっている。やはり、学生競技やアマチュア競技で腕を磨き、メンタルを鍛えた経験者が強い。

世間に注目を集める派手なプロゴルフ界もアマチュアゴルフが支えていることを、このゴルフブームのなかで再認識している。

(文/鈴木一也広報委員)

## TKJ出身 中島啓太選手 第12回アジアパシフィックアマ制覇!

11月3日～6日、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイで開催された「第12回アジアパシフィックアマチュア選手権」で、TKJ出身で世界アマチュアランキング1位の中島啓太選手(日本体育大学3年)が香港の選手とのプレーオフを勝ち抜き、日本選手としては3人目、4回目の同選手権制覇を成し遂げました。

中島選手は、R&Aと全米ゴルフ協会から世界No.1アマチュアに授与される「マーク・マコーマックメダル」の受賞により、22年の全米オープンと全英オープンの出場権を獲得していましたが、この選手権優勝により、マスターズの出場権も獲得。22年は世界のメジャー3試合で、さらなる飛躍が期待されます。

また、今回の同選手権には同じくTKJ出身の森山友貴(オレゴン大学2年)が出場し、16位タイ。



さらに、この翌週、UAEのアブダビで開催され、橋本美月選手(東北福祉大学1年)が優勝した「第3回アジアパシフィック女子アマチュア選手権」にも、現TKJの手塚彩馨選手(佐久長聖高校1年)と上田滯空選手(共立女子第二高校1年)が出場。それぞれ16位タイと28位タイの成績を収めました。



(写真左) アジアパシフィックアマチュア選手権出場の日本選手。左から阪根竜之介(フロリダ州立大学大学院1年)、中島、森山、杉浦悠太(日本大学2年)、河本力(日本体育大学4年)、欧陽子龍(オクラホマ州立大学4年)の各選手。

(写真右) 同女子選手権出場の日本選手。左から稲垣那奈子(早稲田大学3年)、長野未祈(セミノール州立大学3年)、関東ジュニア選手権及び関東女子ゴルフ選手権優勝)、橋本美月(東北福祉大学1年)、木内真衣(東北福祉大学3年)、上田、手塚の各選手。(写真提供:日本ゴルフ協会)

## 2021年度に誕生したTKJ出身プロゴルファー紹介

- 1 羽藤勇司(1999年1月生まれ、ツアープレーヤーとして活動中) 最終プロテスト順位:12位タイ TKJ在籍:2013年～16年
- 2 内田直輝(1999年10月生まれ、日本大学4年) 最終プロテスト順位:14位タイ TKJ在籍:2013年～18年
- 3 泉田琴菜(1999年8月生まれ、IMGゴルフアカデミー卒業) 最終プロテスト順位:3位 TKJ在籍2014年～16年
- 4 佐藤心結(2003年7月生、明秀学園日立高校3年) 最終プロテスト順位:4位 TKJ在籍2018年～21年



編集後記

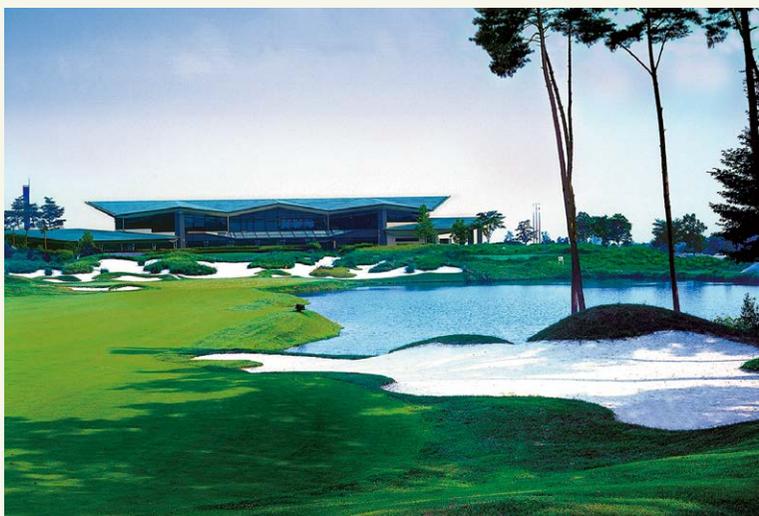
歯が痛い、、、「また、噛み締めて歯が折れたんじゃないだろうか？」歯科医師の弟が言う。思い当たることは、ゴルフ。年齢も考えずに若者に挑戦、グッと歯を食いしばった!診て貰うとやっぱり奥歯が割れていた。夢中になると、「思わぬこと」が起こるものである。今年は、競技会が復活。多くのチャンピ

オンが誕生した。その影で、「思わぬこと」に泣いた多くの選手あったと思う。来年こそは、と新たな挑戦を始めて貰いたいものである。それにしても、ゴルフで歯が割れるとは、、、痛い、、、

(吉田裕明広報委員長)



平川カントリークラブ  
〒266-0004  
千葉県千葉市緑区平川町405  
TEL : 043-292-5501



西那須野カントリー倶楽部  
〒329-2747  
栃木県那須塩原市千本松804-2  
TEL : 0287-37-8111

# KGAGOLFER'S NEWS

2021年12月25日発行

KGAGOLFER'S NEWS No.136

発行所／一般社団法人 関東ゴルフ連盟

〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番11号

銀座SCビル4階

TEL 03-6278-0005 FAX 03-6278-0008

ホームページ <http://www.kga.gr.jp>

発行人／池谷正成 編集／広報委員会

